

<1. 目的>

- 本資料は、各排出事業者が脱炭素化の取組を検討、具体化するにあたり参考となる【国際基準】や【技術開発の動向】、【金融支援】等に関してまとめたもの

<2. レポート>

対象項目

【国際基準】

- 「ISO14083」に基づいたCO2排出量推計

CNPで着目するポイント

- ✓ 貨物輸送チェーン全体におけるCO2排出量の算定方法を定めた国際基準
- ✓ 荷主等の脱炭素化ニーズが高まる中、各事業者の脱炭素化の取組成果を伝えるために押さえるべきルール

《概要》

- ✓ ISO14083ではカテゴリー・要素ごとにCO2排出量を計算する。
- ✓ ISO14083の主目的は輸送チェーン全体におけるGHG排出量の算定と削減を促進することであり、輸送モード別（道路・鉄道・海運・内陸水運・航空等）に算定方法を規定している。大阪“みなと”を含む輸送チェーン全体における排出量把握に関わる基準として重要である。

CNP関連の技術等動向（2/3）

レポート対象

【技術開発の動向】

2. 「ペロブスカイト太陽電池」 の開発動向

CNPで着目するポイント

- ✓ 既存の太陽電池（シリコン系太陽電池）が設置できない場所（ビル壁面・柱・屋根等）への適用可能性がある技術（再エネ拡大↑）
- ✓ 2025年大阪・関西万博のバスシェルターに設置され、夜間LED照明の電力として活用される予定。
- ✓ 大阪府堺市にてペロブスカイト太陽電池製造設備を導入予定（輸送コスト面で他地域より導入に有利）

《概要》

- ✓ これまで普及している太陽電池「シリコン系太陽電池」は、平地面積当たりの太陽光発電の導入量において日本が主要国で1位となっているが、重量があるため設置場所が限られており、新たに設置できる適地が少なくなっている。
- ✓ 「ペロブスカイト太陽電池」は、軽量・柔軟であるという特徴を有し、これまでの技術では設置が難しかった場所にも導入できるため、次世代太陽電池として有望視されている。
- ✓ 製造コスト、耐久性、大型化、発電効率等の課題解決のため技術開発が進みつつある。

CNP関連の技術等動向（3/3）

レポート対象

【金融支援】

3. 「サステナブルファイナンス」 に関する動向

CNPで着目するポイント

- ✓ CNP等の環境関連の取組促進のための資金調達（銀行からの融資等）制度
- ✓ 従来の資金調達に比べて低金利で融資が受けられる（金利優遇）等のインセンティブあり※

※サステナブルファイナンスとして認められるための
諸条件・諸手続き等あり

《概要》

- ✓ サステナブルファイナンスのうちグリーンボンド・ローンは、調達資金を「グリーンプロジェクト」（＝地球温暖化をはじめとする環境問題の解決に貢献する事業）に充当できる仕組みである。
- ✓ 横浜港において、港湾脱炭素化推進計画に基づいたサステナブルファイナンスのフレームワークが設けられ、脱炭素に資する設備投資等の資金調達への活用が検討されている。
- ✓ 大阪“みなと”においても、環境に配慮した資金調達の仕組みを設けることで、CNP関連のプロジェクト推進を後押しできる可能性がある。